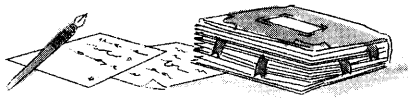


# 雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉



更科吟行

小林貴子

鯉 幟 明治の男もう居らず  
暁の気が青葉若葉を研ぎすます  
藤に虻何か幹旋するやうに  
思索の間山湖郭公惜しみなく  
関の如夏鶯の間を通る  
摘草の花束みんな先生へ  
田に水を引くとてポンプ武者ぶるひ  
棚田へと蝶三頭の卍舞ひ  
蓮の葉を渡るくちなは龍洞院  
夏に入る石を起点の川波も